

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議（第5回）議事録

- 日 時：平成27年8月25日（火）13:30～14:45
- 場 所：杉妻会館 3階 百合の間
- 出席者：別紙出席者名簿のとおり
- 要 旨：各委員から提出された意見に基づき、資料1の報告書案を修正し、有識者会議の報告書として県に提出することが承認された。なお、修正の具体的な内容は会長に一任された。また、発言の概要は以下のとおり。

1 開 会

2 議 事

（小沢会長）

- ・本日、報告書案を配付しているが、これまでの議論に基づき事務局でとりまとめた成果である。改めて皆様のこれまでの御苦勞に感謝申し上げる。
- ・本日は、報告書案にこれまでの意見が適切に反映されているかどうかを検証しながら、改めてアーカイブ拠点施設に対する各委員のお考えを伺いたい。

（1）報告書案について

【報告書案について（「7 おわりに」を除く）】

（小沢会長）

- ・報告書案について、第4回目の議論も踏まえて、事務局から説明願いたい。

（事務局）

報告書案の内容について説明（「7 おわりに」を除く）。

（小沢会長）

- ・それでは、各委員の御意見等を伺いたい。

（中田委員）

- ・報告書案については、今までの議論の内容を工夫しながら反映していると思う。拠点施設の準備過程や開館後を通じて、福島復興や被災者の生活再建、コミュニティの再生の視点が取り入れられており、自分の意見が反映されて

いると思う。

- ・基本理念において、「国内外で今後発生することが想定される大災害に備える」との文言については、趣旨はわかるが、見方によっては大災害の発生を期待しているようにも取れるので、「発生することが否定できない」というように文章表現にもっと工夫があればよいと思う。
- ・「機能3」の中で触れている「双葉郡教育復興ビジョン」は双葉郡8町村の話であるが、震災の影響は周辺の市町村にも及んでいることから、被災12市町村の教育復興の動向とも連携していくというような、もう少し広がりのある内容にすると、全県的な被災への支援にも結びついていくと思う。

(藤沢委員)

- ・「機能4」において、被災者の心の拠り所、支援する企業やNPOとの様々な連携、世代間交流などの幅広い視点から施設の機能を位置付けており、これは重要だと思っている。また、「機能5」において、まだまだ続く復興を担う人材育成に触れている点も、ソフト的な施策の面から重要だと思っている。また、閉じた空間ではなく、オープンなスペースを目指す趣旨があちこちに記載されており、よいことであると思う。
- ・施設をオープンにし関係者が増えると、場合によっては、施設の独自性が薄れるおそれもある。施設をオープンにしながら、同時に、独自性を出すことが課題になると思う。そのため、プロフェッショナルな技量を持つ者のプロデュースを求めるといった視点が必要になると思う。

(圖師委員)

- ・他機関との連携や地域の人々の参加など、前回の会議で述べた視点が入れられていると思う。
- ・ロボットや環境修復についても、いろいろなところで取組みが進んでいくこととなるので、情報発信機能という点で他機関との連携が必要になってくると思う。
- ・基本構想段階の話になるかと思うが、今回盛り込まれた機能を活かすためには、施設の設置場所も重要になってくると思う。

(馬場委員)

- ・「機能3」で触れている教育旅行については、できれば「放射線量の低減化を見極めてから」という趣旨を付け加えてはどうかと思う。
- ・国が全面的に拠点施設をバックアップするというような表現に変えていかないと、国の責務という点がはっきり見えてこないような気がする。

(小沢会長)

- ・今回の報告書案については、私を含め、各委員の意見がうまくまとまっていると思われる。特に重要なのは、どのような主体で活用するかだと思う。国の責務との話も出たが、この施設では復興の加速化や住民の主体的な活動が期待されており、住民目線で活用を考えることが大切なことであると思う。
- ・文言の修正は会長である私と事務局との間で行わせてほしいが、修正や追加する部分については任せていただいてよろしいか。

※各委員了承。

【報告書案「7 おわりに」について】

(小沢会長)

- ・次に、「7 おわりに」については、何かしら、編集後記や後書きのようなものを加えることが大事だと考え、委員の皆様からの思いも反映させて、私が事務局と相談して作成したものである。まずは、事務局から内容を説明願いたい。

(事務局)

「7 おわりに」の内容について説明。

(小沢会長)

- ・3つの基本理念を基に、「ふるさとふくしま再生の歴史と未来館」として位置付けられる施設というようにまとめたものであり、各委員の思いも反映させたつもりではあるが、各委員の御意見を伺いたい。

(藤沢委員)

- ・基本理念の順番について、いろいろな意図があるとは思いますが、今のままでいいのか悩んでいるところである。
- ・復興の加速化に寄与する点、地域コミュニティ再生の場になる点、地域住民にとっても復興に向けた大きな拠点となる点などを念頭に置いて、先ほどのような発言になったが、順番の調整は最終的には会長にお任せしたい。

(圖師委員)

- ・基本理念の順番について違和感はない。
- ・基本理念の2つめの「福島にしかない」との表現は、読み方によっては、地域が福島だけに限定されるように解釈されるおそれはないか。他の関係機関

等との連携も考慮し、表現に工夫の余地はないか。

(小沢会長)

- ・確かに、福島とは異なるタイプの複合災害についてもデータ等の資料を集めることはあり得るかもしれない。表現に工夫の余地はあるのかもしれないと受け止めたいと思う。

(中田委員)

- ・趣旨は、福島の独自性を確保しつつ、施設の成果を世界に向かって活かしたいということだと思われる。
- ・2ページの「2 施設整備の基本理念」を見ると「これらを踏まえ、次の理念の下、・・・拠点施設を整備する必要がある。」との表現があるが、一方、基本理念の文章の末尾は体言止めになっているので、貢献するとか推進するというような表現を使えば、もっとわかりやすくなると思う。

(馬場委員)

- ・最初に述べたように、国の責務というものを打ち出してもらいたい。
- ・表現はなかなか難しいかとは思いますが、地元として特に言いたいのは、これまでの日常生活がすべてだめになってしまったということである。そのような実情を発信する表現がアクセントとしてあった方がよいと思う。

(中田委員)

- ・文章表現の問題だと思うが、13ページ「7 おわりに」の8行目からの表現については、何々をするというような表現にした方がつながりがよくなると思う。また、句読点の位置も直した方がよいと思う。

(小沢会長)

- ・お話のあった部分については、現状を踏まえ、わかりやすい表現にしながら、3つの理念や人々が集うシンボル、そして「ふるさとふくしま再生の歴史と未来館」につながるように調整したいと思う。
- ・整備スケジュールについて、東京オリンピック・パラリンピックと関連づけた部分について、各委員の御意見はいかがか。

(馬場委員)

- ・あえて言うと、東京オリンピックという言葉があまり前面に出ると、世間ではもう災害が終わってしまったと受け止められているのかというような感情を持つ被災者が多いことに留意してほしい。

(中田委員)

- ・オリンピックに触れた意図は2つあると想像する。1つは、世界の目が日本に集まる中で世界に向かって発信するチャンスであり、少なくともこの時期には運用を開始する必要があるということ、2つめは、誘致の際に安倍首相がオリンピックの時期までに安心な環境を整えると世界に向かって約束したことである。この2つめの点を担保するような表現をうまく加えると、国の責任という部分とうまくミックスできるのではないかと思う。

(小沢会長)

- ・オリンピックの時期までには何とかしてほしいという思いはある。と同時に、それまでに努力を重ねることが一番大事ではないかと思っている。
- ・「7 おわりに」については、施設に対する期待や思い、今までの苦労などを念頭に書かせていただいた。報告書の最後の文章として入れることについて、御了承いただきたい。

※各委員了承。

【まとめ】

(小沢会長)

- ・最後に何か御意見はあるか。

(藤沢委員)

- ・今後に向けて2点ほどコメントしたい。まずは、地域の方々が主体的に施設に関わることができるように引き続き検討をお願いしたい。また、展示交流エリアについてはプロの目から見てインパクトのあるものにしてほしい。

(小沢会長)

- ・文言修正等の調整は、会長である私と事務局との間で行い、そのうえで各委員に最終確認をお願いして有識者会議として報告書を取りまとめ、県に提出したいが、それでよろしいか。

※各委員了承。

(小沢会長)

・改めて、これまでの各委員の御苦勞に感謝して、本日の會議を終了としたい。

(2) その他

(事務局)

會議協力への御礼等。

3 閉 会